

理事長 あいさつ



理事長 五十嵐 修 平

今年の春は、天候が大変不安定であり、苗の伸びも少し停滞しているように見受けられ、田植えも連休の始めには無理ではないかと心配しておりましたが、連休中は晴天に恵まれ、何とか田植えを終えられたものと思います。

また新潟県の農業農村整備にあっても、国の農業農村整備予算の縮減と厳しい地方財政を反映してか、農地部の予算は457億円と前年度比87・1パーセントとなっています。

一方、新潟市では、政令市移行から3年を迎え、5つの重点化・高度化を柱とする戦略プランが策定され、その1つが「田園型政令市、環境先進都市の実態づくり」であります。

特に農林水産予算は与党のマニフェストを推進し、戸別所得補償対策に5618億円を割り当てると、食料の供給力の向上、食の安全確保、農山漁村の活性化に重点が置かれました。しかし、農業農村整備事業については、戸別所得補償の財源の確保や公共事業予算の縮減の方針から2129億円と前年度比36・9パーセントという、かつてない大幅な削減となりました。

このように農業情勢が大きな変革を迎える中で、当土地改良区の平成22年度予算は、12億8344万円と前年に比べ2億5000万円ほど減額しました。これは国営かんがい排水事業

の負債償還の終了と中央管理所の維持管理費の低減によるものです。新たな水管理システムの完成に伴い平成22年度からは親松排水機場において排水の一元管理を行うこととなりました。当土地改良区の使用排水管理の一大転換点に当たり、安全で効率的な排水管理の確立に努めるものであります。

また国や県の農業農村整備予算の削減方針から、施設の保全についても工種や整備方法を見直し、適切な機能診断や保全・長寿命化を実施していきます。こうした方針

を取り入れつつ予算審議の過程において財政調整基金からの繰り入れや前年度の繰越金の算入、または経費節減によって10aあたり賦課金を11500円を維持しました。今後とも土地改良区に求められる役割を果たしつつ新たな収入源の確保を図り、基金財源依存度の軽減に努めてまいります。

平成22年度 総代会開催報告

平成22年3月12日平成22年度通常総代会が現在数66名うち63名出席の中開催され、議長に五十嵐正栄総代(両川)、副議長に桑野保雄総代(大形)を選任し、合計11議案について審議し、全て議決されました。

また、亀田郷土地改良区功労者表彰が行われ、荒井弘前理事と藤島善策前理事へ表彰状並びに記念品が授与されました。



平成22年度通常総代会(平成22年3月12日)

- 付議事項 議第1号 県単下早通地区農業用排水施設整備(農業農村整備)事業の施行について
議第2号 平成21年度収支補正予算案について
議第3号 平成21年度一般会計事業費の繰越明許費について
議第4号 平成22年度新規土地改良施設維持管理適正化事業の加入について
議第5号 規約の一部改正について
議第6号 地区除外等処理規程の一部改正について
議第7号 平成22年度賦課金について
議第8号 平成22年度収支予算案について
議第9号 平成22年度基金積立金の一時流用について
議第10号 平成22年度予算の款内流用について
議第11号 平成22年度賦課金の徴収期日および方法について

短 信

Table with columns for dates and activities. Includes dates from 3/25 to 10/6 and various events like '総代会', '視察', '表彰'.